

動物學雜誌第七拾六號

東京商船學校生徒原田源八郎來訪

七日 大渡、宮島去る

同日 閉場

●三崎土産三幅對 御國の増大と共に動物も大き

くなりけん當冬三崎滞在中獲物の大なるもの三つを撰びて左に

左、拂子介、(H. Siebold, (Iray) 海綿躰上端面幅十七

セ、メ、に長さ二十七、メ、躰三、長さは根を除

きて二十四セ、メなり先つ山高帽子位の大さと

見ば考へられん(エナ掛々内端四百二十尋)

中、ばんばがに (三崎方言 (Inachus Kaempfer, De

Hean) 甲殻の大さ幅三十セ、メ、長さ二十七セ、

メ、第一歩肢の長さ百四十セ、メ、なり先つ普通

の銅盥大の甲にて第一歩肢を充分に延はせば一

端より他端まで一丈二寸三分と思はゞ宜しから

ん(場所失念)

右、いうぎんちやく一種(Adamsia sp.)^{オニラギデイスク}口盤の直径二十セ、メ、^{アフナラデイスク}底盤の徑十七セ、メ、躰長二十二セ、

メ即チ尋常之茶筒位の大きさと見ば可ならん(前の澱、三百尋「やぎ」に附着す)

●「いうぎんちやく」の逸物 一日海士エビ網の獲

物を持來る中に白糸の亂れたる如きあり採りて新鮮なる海水中に置きしに白糸は離れ廣がりて一個の「いうぎん

ちやく」となれり胴薄白色觸手も全色其基底少かに橙赤

色長く垂る桑實様の突起 (Tubercoli) 胴面に散在し口端

に近くは延びて早蕨の様をなすも許りあり其面の所に桑

實突起あり靜かに此手(假りに云ふ)を動かし白糸は房の

如く引き起んとして立つ能はず斜に躰をなせる容の優な

る世に比すべきなし此美しきものと詳しき容姿素性名目

は大森君讀者諸君に紹介せらるゝ由なり

●「エビ」網 三崎近傍城が島二ヶ町谷松輪等の入冬

期使用す長さ五六間幅三尺許り網目二寸四方位の細長き

網なり是横に數ヶ連ぬ夜に入り岩根の邊に沈む端に重り

と浮標を附し其儘放置し翌朝早々引上ぐるなり目的は名